

2. 平成 25 年度（2013 年度）トピックス

◆グランドデザイン・特定事業の取り組み

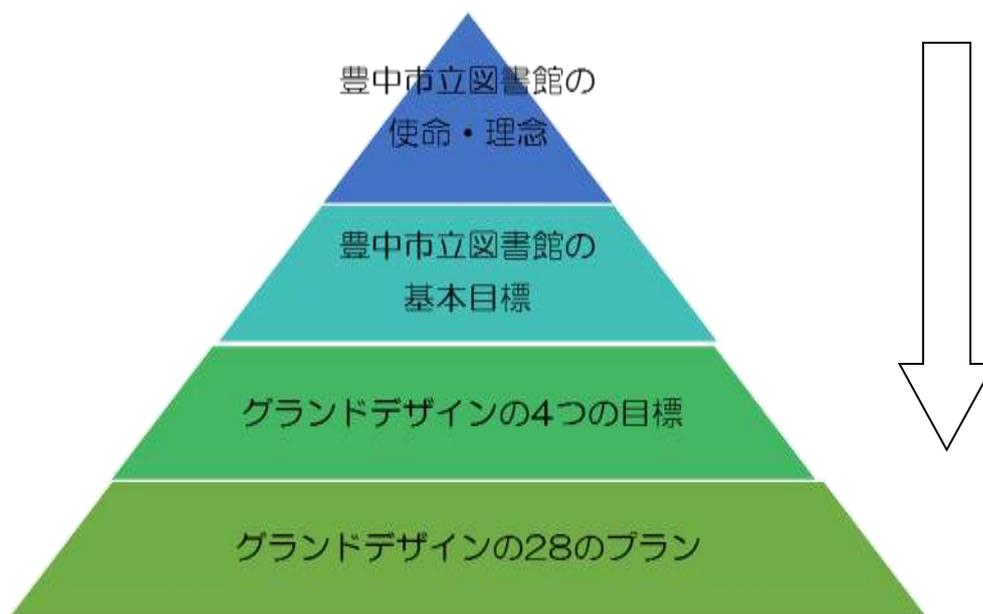
豊中市立図書館は、これまでに積み重ねてきた資産である資料と職員、そして利用者の存在があって、赤ちゃんから高齢者まで市民の誰もが気軽に利用できる機関として、きめ細やかな市民サービスを展開してきた。

図書館事業は、行財政改革の視点から市全体として進行管理を行う「特定事業」に指定されており、今後 10 年間の目指すべき姿と方策をあらわしたものとして、平成 26 年 3 月に『豊中市立図書館の中長期計画』（以下「グランドデザイン」という。）を策定した。

(<https://www.lib.toyonaka.osaka.jp/management/index.html>)

図書館では、「特定事業の見直し（25 年 3 月公表）」で示した方向をめざして、ICT の活用による業務の効率化、人的資源の再配置と経費の削減を見据えながら、市民に必要なサービスを見極め、グランドデザインの 4 つの目標と 28 のプランについて、年度ごとの進捗状況を把握し、着実にすすめていく。（P34 ページ参照）

豊中市立図書館グランドデザインのイメージ図



◆図書館コンピュータシステムの更新

平成 26 年 3 月にさらなるサービスの充実をはかるため、図書館コンピュータシステムの入替えを行った。

〈基本コンセプト〉

- ・常に信頼され、使いやすい図書館システム
- ・あらゆるメディアを柔軟に取り込み、編集できる図書館システム
- ・地域のすべての世代が集い、学ぶ場を提供する図書館システム
- ・「集合知」を活用、発展させる図書館システム

〈主な特徴〉

- ・資料に I C タグを貼付し、一括貸出、返却が可能になった。また、出入口にゲートシステムを設置することで資料の亡失を防ぎ、書架の信頼性を高めた。このことにより、蔵書点検の期間短縮や自動貸出機導入への環境整備を行った。
- ・スマートフォンのサイトを開設。
- ・図書館ホームページで、マイブックリスト（借りたい本リスト、面白かった本リスト）を作成することが可能になった。
- ・公衆無線 LAN 導入への環境整備を行った。（26 年 7 月共用開始）

◆分析・PR委員会

以前より戦略的な PR の必要性を感じており、また外部評価においても同様の指摘を受けていたことから、「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」に PR を担当するグループの新設をプランの一つとした。図書館の魅力や役割、取組を広め、利用促進するために、利用状況を分析する担当ともかねる分析・PR チームを立ち上げた。

年 7 回の会議を開催し、図書館統計などを活用しながら利用実態の分析を行った。特に「グランドデザイン」に明記されている登録率の向上に関わる分析、関連する統計資料の収集について集中的に取り組んだ。

年齢別の利用実態を見ると、平成 19 年度から 24 年度には 10 代後半から 30 代にかけての貸出人数が大幅に減少している一方、同世代の人口の大幅な減少は見られなかった。また転入、転出は 20 代から 30 代にかけて集中していることから、転入時の PR が効果的であると考え、市役所第一庁舎一階に設置されているマチカネビジョンで転入が集中する年度末に図書館の PR を行った。このほか、教育委員会のメールマガジンなど様々なメディアを活用して、図書館サービスを広く周知する取組を行い、豊中市の広報公聴課とも連携しながら PR 手法の検討を実施した。

さらに職員から出されたサービス向上や業務改善に繋がるアイデアを「すぐできるもの」「実施に時間を必要とするもの」などに振り分け、優先順位をつけて整理を行った。このアイデアについては、引き続き取組み状況の確認を行っていく必要がある。また先進的な取組みを知る目

的として、伊丹市立図書館「ことば蔵」や大阪大学の大学図書館の視察を行った。今後も戦略的にPR手法を開発し、図書館の仕組みや機能を広く市民に周知していく。



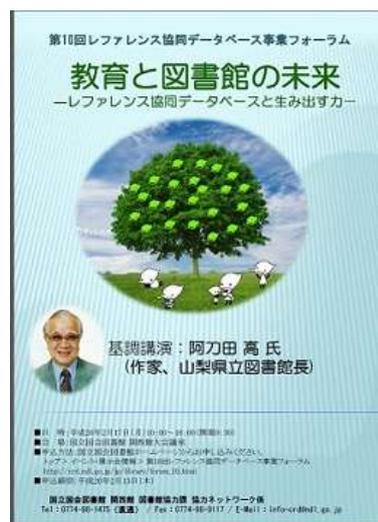
豊中市役所 1階
まちかねビジョン
図書館のPR画面

◆レファレンス協同データベース

豊中市立図書館で行った調査の内容を検索サイトなどから24時間いつでも利用できるよう、国会図書館のレファレンス協同データベースにレファレンス事例として提供し、図書館Webサイトでは「レファレンス事例をさがす」のページから検索可能にしている。

平成25年には、「自由研究で雲を作る実験をしたい」「労働基準監督署への届出の要不要について、根拠法も含め確認したい」「不登校の悩みの相談窓口を知りたい」等の問い合わせに対する回答を登録し、336件を一般に公開した。(累計1,004件登録) これにより、レファレンス協同データベースに挙げた事例数、また、その事例について全国から多くの照会があったことに対し、昨年度に引き続き国会図書館から礼状がおくられた。(被参照件数214,794件) なお、登録点数については、礼状送付71館中5番目、被参照件数については同じく10番目にあたる。

また、2月の第10回レファレンス協同データベース事業フォーラムでは、公共図書館の同データベース活用の先進事例として「レファ協活用と地域の魅力の再発見について」と題した実践報告を行った。同フォーラムでは「地域に関する学び」「子どもたちの学び」「成人の学び」の3つの観点から調査内容を公開することによって、豊中市および市民の魅力を全国にPRするとともに、新たな学びのきっかけを作る「学びの循環」の一環としてレファレンス協同データベースを活用していることを報告した。



第10回レファレンス協同データベース事業フォーラムポスター

◆暮らしの課題解決

豊中市立図書館では、平成23年度から暮らしの課題解決サービスとして、「医療・健康情報」（岡町図書館）、「多文化共生」（庄内図書館）、「ビジネス・就業」（千里図書館）、「子育て・DV（ドメスティック・バイオレンス）」（野畑図書館）の資料の充実と関係部局・機関との連携による取組みをすすめてきた。

25年度、ビジネス・就業支援では、市民向け講座「図書館でビジネス！」を立ち上げ、第1回「起業準備は図書館で！」を開催した。経営コンサルタントを講師に迎え、実体験を踏まえての起業についての講座を実施。司書による資料紹介や図書館でのビジネス支援サービスについての紹介も合わせて行った。参加者からは、起業の第一歩を考える参考になった、関係施設や図書館の活用方法が分かって良かったという声もあり、おおむね好評であった。また、開催に当たっては、地域経済課・とよなか起業チャレンジセンターなどからアドバイス等の協力を得た。

「とよなか産業フェア」への出展は、「願いのかなう、としょかんに」をテーマに関連資料の紹介や展示のほか、判例・法令などが調べられるデータベースを展示・模擬実演した。

また、家族連れが来て楽しめるイベントであることを踏まえ、「こんな図書館がいいな」という希望を貼ってもらう参加型の展示も行い、盛況であった。

また、雇用労働課長を講師にまねき、先進的な取組みを行っている豊中市の雇用・就労支援事業について認識を深める研修を持った。

医療健康情報支援では、市立豊中病院との連携による「医療健康情報レクチャー」を23年度から開催。にも開催場所を拡げ、「高齢者のこころのケア」などのテーマで4回実施した。この講演会は、認定看護師の講演後、参加者からの質問も受け、図書館からは関連した本を展示・貸出している。特に高齢者の参加が多いことから、身近な図書館で気軽に医療の講演会に参加できると好評であった。



ビジネス講座



医療・健康情報コーナー（岡町図書館）

また、豊中市保健所・地域保健課主催の連続講座「健康カレッジ」（開催場所：中部保健センター 全8回）に出向き、テーマに沿った関連資料の展示・貸出を実施している。

このほか、市役所ロビー展、とよなか市民健康展にも参加して、岡町図書館の医療・健康情報コーナーのPRや、医療健康情報のパスファインダー「検索ナビ」の配布を実施し、図書館外での広報活動に努めた。

◆広域利用サービス

・豊能地区3市2町広域連携

平成24年6月1日より、箕面市・池田市・能勢町・豊能町と「豊能地区3市2町による公立図書館広域利用（試行）」を開始した。25年6月より豊能町立、能勢町立での貸出冊数を、3冊から5冊に変更した。

豊中市立図書館からの貸出冊数は31,151冊であり、箕面市民が73%、次いで池田市民が23%と隣接の市からの利用が多くなっている。

また、豊中市民の借出冊数は38,233冊であり、箕面市が全体の97%と多くなっている。

いずれの市町においても、毎月一定の新規登録はあるが、さらにPRを行い、市民の利便性の向上に努めていく。

26年度末で試行期間が終了し、27年度より本格実施の予定。

・吹田市との広域利用

23年5月より、吹田市立図書館、豊中市立図書館、各3館での広域利用（試行）を開始した。

利便性の向上と両市の利用均衡のため、25年4月より、吹田市立山田駅前図書館と豊中市立服部図書館を新たに追加し、吹田市でのCDの貸出点数制限を豊中市と同じく1点から2点に変更を行った。これにより、25年度の豊中市民と吹田市民の貸出冊数の比率が1:2.9から1:1.7となった。

◆図書館での重点分野雇用創造事業

豊中市では大阪府の「緊急雇用創出基金事業」を活用した雇用創出事業に取り組んできた。図書館では、平成24年度の「図書館の新しい管理業務等を通じた就労困難者等就職促進事業」に続き、25年度は、「重点分野雇用創造事業」（市民協働部雇用労働課）の一環として、就職困難者等による図書館管理サービス創出モデル事業を実施した。

本事業は、働く意欲がありながら自力では仕事に就くことが難しく、特に身体障害など何らかの支援が必要な就労困難な方々に、身近な図書館で資料整理の業務を経験することで、社会参加への一歩とし、今後の就業につなげることを目的としている。

主な業務内容は、新しい図書館管理業務に向けた視聴覚資料へのICタグの導入、ブックシャワーを活用した本のクリーニング、本の修理などである。いずれも接遇、個人情報保護、図書館業務などについての研修を受講したうえで臨み、フォローアップ研修や個別面談を経ながら、最終のまとめ・振り返りにいたるまで、個人の状況やスキルに応じた取組みとなった。

この事業を通じて、障害者への就労支援とともに、障害のある人と職員がともに働き、互いにサポートし合うことで、お互いへの理解を深め、学びあうよい機会となった。

3. 地域・市民との協働

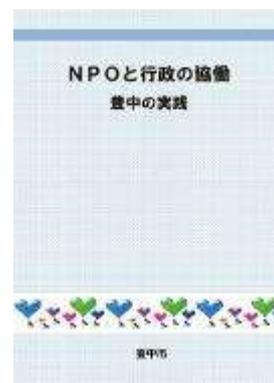
豊中市立図書館は、特に児童サービス、障害者サービス、多文化サービス等において、早い時期から市民と共に事業に取り組んできた。昭和 50 年代から豊中子ども文庫連絡会（以下豊子連という）と共に築き上げてきた子どもと本をつなぐ取組みは、現在の「子ども読書活動推進計画」へとつながっている。また障害者サービスでは、市民グループによる点字・録音図書の作成や対面朗読などにより、障害のある方への読書環境を整える役割を共に担ってきた。その後「しょうないREK」、「北摂アーカイブス」、「千里文化センター市民運営会議」が始まり、「地域教育協議会」との事業なども含め、図書館自身が地域の一員として、地域・市民と協働で取り組んでいる。

平成 25 年度は、これからの豊中市立図書館のあり方を共に考える機会として、鳥取県立図書館の小林隆志さんを講師に迎え、図書館の未来を考える会と協働で先進事例を学ぶ研修を開催した。企画段階からともに取組み、事前に図書館職員がサービス向上や効率的な運営、図書館事業のPR方法について考え、市民と意見交換する場を持った。研修や意見交流の中での気づきを大事にして、今後の図書館サービスに活かしていきたい。

絵本によるまちおこしの物語である映画『じんじん』について豊中市での上映にあたり、市と教育委員会が9つの団体とともに実行委員会を組織し、読書振興課が事務局を務めて協働事業として取組み、3つの会場で631人の来場者があった。多様な団体がつながる機会となった反面、情報共有が不足するなど運営面での課題もあった。

また、豊中市の協働の実践事例をまとめた冊子『NPOと行政の協働 豊中の実践』（市民協働部コミュニティ政策室発行）にブックスタート事業「えほんはじめまして」やしょうないREKの取組みが紹介された。

豊中市立図書館は、資料・情報と人をつなぐ役割を基盤に、人と人をつなぐ出会いの「プラットフォーム」の役割を果たすことをめざしている。協働で取り組むことにより、市民の感覚が事業に反映され、地域に根ざした図書館活動につながると考えている。豊かな都市創造や市民生活に潤いをもたらす「知の拠点」として、今後も市民と共に歩むよう努めたい。



◆市民との取組み事業一覧

館名	事業名	団体名	開催数
岡 町	子ども読書活動推進事業	豊中市子ども読書活動推進連絡協議会	10
	子どもと本をつなぐ地域交流会 中部	豊中市子ども読書活動推進連絡協議会	2
	ブックスタート事業「えほんはじめまして」 (中部保健センター)	豊中子ども文庫連絡会他	18
	ブックスタート事業「えほんはじめまして」スタッフミーティング等	豊中子ども文庫連絡会他	3
	子どもと本のまつり	豊中子ども文庫連絡会、おはなしポケット、(特活)国際交流の会とよなかTIFA	1
	子どもと本のつどい	豊中子ども文庫連絡会	2
	ボランティア講座(おはなしボランティアフォローアップ講座他)	おはなしポケット他	8
	おはなし会(おはなしとことこ、図書室おはなし会)	おはなしポケット	83
	とよなか地域子ども教室	SA とよなか	10
	おかまちおやこでにほんご	おやこでにほんご	27
	あおぞらおはなし会	おはなしポケット	30
	地域情報アーカイブ化事業-北摂アーカイブス	地域情報アーカイブ化事業実行委員会、地域フォトエディター	23
庄 内	ブックスタート事業「えほんはじめまして」 (庄内保健センター)	豊中子ども文庫連絡会他	12
	しょうないREK実行委員会	しょうないREK実行委員会	10
	リサイクル本販売コーナー・陶器とりかえ隊	しょうないREK・赤ちゃんからのESD	36
	しょうないおやこでにほんご	しょうないREK(地球ママくらぶ)	31
	夏休み宿題コーナー・プリント宿題コーナー・本のしおりを作ろう・木切れで作ろうカブトムシ	しょうないREK	1
	しょうない芝居小屋「ええやん!子ども演芸会」	しょうないREK、とよなか市民文化会議	1
	呈茶のご案内	しょうないREK	1
	庄内公民館まつり(古本市)	しょうないREK、おはなしポケット他	1
	庄内南公民分館文化祭(古本市、おはなし会)	しょうないREK、おはなしポケット他	1
	庄内祭り(古本市、おはなし会、おばけ屋敷、昔あそび工作、子育て情報コーナー)	しょうないREK他	1
	とよなか国際交流センター東北復興支援バザー(古本市)	しょうないREK他	1
	千里文化センターフォーラム(プチ古本市)	しょうないREK他	1
	とよなか市民環境展(古本市)	しょうないREK他	1
	ごみ減量フェスティバル(古本市)	しょうないREK他	1
庄内幸町	おはなしポケット	おはなしポケット	11
千 里	ブックスタート事業「えほんはじめまして」 (千里保健センター)	豊中子ども文庫連絡会他	18
	ブックスタート事業「えほんはじめまして」写真展	豊中子ども文庫連絡会他	2
	ブックスタート事業「えほんはじめまして」子育て座談会「赤ちゃんと一緒に絵本のある暮らし」	豊中子ども文庫連絡会他	1

館名	事業名	団体名	開催数
	おはなしワールド	千里ストーリーテリングの会	2
	ときどき！おはなし会	千里ストーリーテリングの会	10
	コラボまつり(おはなし会・紙芝居・すみで遊ぼう！マールを楽しもう・世界の打楽器を楽しもう・てづくり工作・子ども将棋大会)	千里文化センター市民運営会議、豊中子ども文庫連絡会、第九中学校書道同好会、国際交流の会とよなか(TIFA)、ふれあいネットワーク、豊中紙芝居の会、高校生・大学生ボランティア	1
	千里文化センター市民運営会議	千里文化センター、国際交流協会、市民	4
	千里コラボ大学校	千里文化センター市民実行委員会	11
	大人のための絵本カフェ	千里文化センター市民実行委員会	1
	夏休み子ども実験教室コラボde絵本×ラボ	千里文化センター市民実行委員会	1
	多文化カフェ	千里文化センター市民実行委員会	7
	ディスカバー千里	千里グッズの会他	7
	千里ニュータウン観光プロジェクト	千里文化センター市民実行委員会	7
	千里親子ふれあい広場	赤ちゃんからのESD	8
	千里親子のつどい	赤ちゃんからのESD	1
	せんりおやこでにほんご	おやこでにほんご	21
	ユニセフ写真展	大阪ユニセフ協会ボランティア	1
	ふゆのおたのしみ会	大学生	4
野 畑	おはなし大会	野畑おはなしの会 ミックスJAM	1
	おはなしプレゼント	野畑おはなしの会	12
	とよなか地域子ども教室(てづくりあそび、たこあげ大会、のばだけ囲碁くらぶ ほか)	地域ボランティア 野畑えほんの会	21
	科学実験教室 他	Sネットの会	4
	北摂アーカイブス展	地域情報アーカイブ化事業実行委員会	1
東豊中	おはなしたんけんたい	おはなしたんけんたい	44
	おもちゃ教室「つくってあそぼう」	ふれあいネットワーク	1
	大人のための朗読サロン	朗読グループ「草の実会」	2
服 部	おはなしポケット(1才~3才・4才以上・小学生)	おはなしポケット	52
高 川	おはなし会(おはなしくらぶ)	おはなしポケット	44
	紙芝居ボランティア(紙芝居会・練習会)	おはなしポケット	9
	とよなか地域子ども教室	千里ネイチャークラブ	12
蛍 池	おりがみ教室	市民	12
	おはなしもこもこ	おはなしポケット	50
	人権・平和月間事業(であい・ふれあい大賞作品展、フェスティバル等)	子育てふれあいの会	3

◆関係団体一覧

<p>子どもの読書支援</p> <p>子ども文庫 (*印は豊中子ども文庫連絡会加入文庫)</p> <ul style="list-style-type: none"> * おひさま岡町文庫 * おひさま文庫 * くれよん文庫 * Kei おばさんの本の部屋文庫 月よう文庫 * サークル文庫 * そよ風文庫 * つみ木文庫 * 仲よし文庫 * にじいろ文庫 <ul style="list-style-type: none"> * 豊松園文庫 まめぶんこ <p>おはなしボランティアポケット 豊中紙芝居の会 千里ストーリーテリングの会 野畑おはなしの会 おはなしたまてばこ おはなしたんけんたい 紙芝居クラブともだちや</p>	<p>読書会</p> <ul style="list-style-type: none"> つぐみ読書会 とよ読書会 豊中読書会 原田読書サークル ふうせんかずら 木よう読書会
<p>障害者・高齢者読書支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪声のグループ 豊中点訳会 グループ・エコー 	<p>朗読グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 草の実会
<p>多文化読書支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流の会とよなか (T I F A) おかまちおやこでにほんご しょうないおやこでにほんご せんりおやこでにほんご 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊中市立図書館利用者の会 豊中図書館の未来を考える会 しょうないREK 地域情報アーカイブ化事業 実行委員会

◆しょうないREK（R:リサイクル E:イベント K:瓦版〔情報〕）

正式事業名：リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業

平成 16 年度協働事業市民提案制度で提案団体と豊中市との協働事業が成案化され、庄内図書館 3 階でリサイクル本販売コーナーが開設された。

25 年度は、常設販売の回数、人数とも減少しているが、リサイクル本を「買うところ」から本を介して「人と人が出会う場」になっている。雇用労働課の地域就労支援センターより依頼があり、就労前体験として 2 名のボランティアを受け入れることで、社会へ出るためのウォーミングアップの場ともなった。販売に関わるボランティアも増え、古本市への出展回数および来場者も 24 年度より増加した。今回はじめて千里文化センターフォーラムで販売を実施した。

さらに陸前高田市図書館ゆめプロジェクトの一環として、本の寄贈により被災地の新しい図書館建設に役立てることに関わった。

イベントとして REK 夏休み宿題コーナーの開設や工作教室、子ども演芸会などを実施。他にも庄内祭りでのおばけやしき、古本市、豊中エコショップ記念制度・ごみ減量フェスティバル等へ参加した。

また、3 年ぶりに瓦版『ええやん！しょうない』を発行した。

大阪公共図書館協会の大会で REK に関する事例発表を庄内図書館長が行ったほか、『ARG リソースガイド 4 号』への記事掲載など、幅広く REK の取り組みが注目される一年ともなった。今後も環境・共生・活性化を軸に継続していくために、参加団体と関係課が連携して取り組む必要がある。

◆千里コラボ

市民公募委員、学識経験者、各施設長で構成された市民運営会議に図書館も参加し、コラボ内の多機能施設の利点を活かしながら、事業のあり方や市民実行委員会の実施する事業の評価等を行っている。平成 24 年度からは各施設における連携事業のあり方の検討も行い、市民協働や施設間連携のさらなる可能性を模索している。

25年度、市民実行委員会主催事業として、地域住民を講師とした「千里コラボ大学校」では、「北前船—交流の歴史・チェンバロとともに」などのテーマで計11回の開催、延べ665人の参加者があり、講師や主催者との打ち合わせを重ねながら司書が関連資料の紹介や展示、図書館のPRを行った。また、「大人のための絵本カフェ」が形を変えて不定期での開催となり、夜間での「キャンドルブックトークカフェ」や「夏休み子ども実験教室コラボ de 絵本×ラボ」において絵本の紹介を行った。「多文化カフェ」には毎回テーマとなる国の関連本やCDの団体貸出を行っている。



コラボまつり

毎年10月には「コラボまつり」を開催し、市民実行委員会や公民館グループ等とともにコラボ全館で取組んでいる。

25年度から千里文化センターの協働事業として始まった「都市型観光『千里ニュータウンの魅力発信』プロジェクト」に図書館も参加し、観光マップの作成などに取組んでいる。

22年度協働事業市民提案制度で成案化した「ディスカバー千里事業」では、2月に展示発表会として、ギャラリートークやパネルディスカッション、パネル展示とともに千里ニュータウン関連本の展示を行った。また転入者向けに千里地域の情報を集めた「ウェルカムパック」の配布も行っている。

◆北摂アーカイブス～地域情報アーカイブ化事業

この事業は、平成21年度文部科学省「図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業」としてはじまり、翌年から「地域情報アーカイブ化事業実行委員会」が、市の単独事業として継続している。

近隣の箕面市と連携することで、行政区域に依存しない住民の生活圏の情報・地域ニーズを反映した地域情報の収集・発信を行うための仕組みとなっている。住民の生涯学習を支えるための基盤整備及び地域コミュニティの活性化に資することをめざしている。

〈25年度の事業について〉

25年度は、従来の写真の整理・精査に加え、図書館システムのリプレースに併せて当Webサイトの更新（デザインや機能）について話し合った。特に機能については、4年間の活動を振りかえり、利用者にとって不可欠な検索機能の拡充、地域フォトエディターによるコンテンツ登録機能の向上、セキュリティ強化（IDによる権限制御等）、アクセス統計など意見を出し合って、システム構築の改善に取組んだ。

「北摂アーカイブス写真展」は、北摂の名所である箕面滝道を題材に野畑図書館を会場として開催した。さらに、全国公共図書館研究集会での事例発表、新聞社の取材や出版社から編集協力の依頼を受け、加えて図書館情報学の著書に紹介されるなど、幅広くこの事業を周知する機会となった。



新北摂アーカイブストップページ

http://e-library2.gprime.jp/lib_city_toyonaka/cms/

北摂アーカイブストップページ
アクセス数 72,461 件/年



〈今後の課題〉

これまで検討をかさねてきた機能を反映させた新Webサイトを26年7月に開始。「見やすさ」、「使いやすさ」は向上したが、コンテンツはまだ不足しており、さらなる収集が求められる。「地域フォトエディター日々の活動」をブログとして発信し、閲覧者が気軽に意見感想を投稿するなど、情報がよりリアルタイムで収集・発信できる新機能を加え、今後もコンテンツの発掘とともに活動を支える地域フォトエディターの募集をすすめていく。

4. 子ども読書活動推進計画

平成22年度（23年3月）に策定された「豊中市子ども読書活動推進計画第2期実施計画」の4年目にあたる25年度は、5ヵ年計画の総括を行うための準備年度とした。子ども読書活動に関わる市民ボランティア、関連各部署担当者などに計画とその概略を周知する目的で作成した概要版を用いて、互いの活動を知り、人的交流を活性化させるために地域交流会を行った。

交流会では居宅親子に向けての取組みや障害がある子どもへのサービスなど重点課題に関わる事例について保健センター・公共図書館・学校図書館から報告があり、解決に向けての取組みが成果をあげていることを確認できた。参加者は主に子どもたちの読書環境を整える活動に携わっている人々であり、概要版を手渡したことや、相互に意見を交換する時間をとった



子どもと本をつなぐ地域交流会

ことで、自らの活動がそこで完結しているのではなく、さまざまな人と場所において関係していることなどを意識してもらった機会となった。

「とよなかこども読書マップ」の作成、推進計画の進捗状況の把握・事業評価も例年通り実施した。26年度はまとめの年度となるので、第2期実施計画評価報告書を作成する予定である。

5. 事業報告

◆個人貸出サービス

＜貸出室・一般図書コーナー＞

平成25年度の登録率は39.8%。個人有効登録者数は156,944人と微増。年齢別では15～17歳8,467人（対前年度比6.6%増）、18～21歳6,469人（7.5%増）と若年層が増えた。

成人書の個人貸出冊数（継続貸出は除く）は1,897,699冊（4.9%減）、15歳以上の個人貸出人数は765,814人（5.5%減）となり減少傾向にある。年代別に見ると、30代までの利用が減少し、一方で70代以上は引き続き増加している。『日本の図書館2013 統計と名簿』（日本図書館協会）によると、全国の公共図書館の登録者数は引き続き増加しているが、個人貸出数は前年度に続き減少している。社会全般の動向としてスマートフォン・タブレット端末の利用時間が増加していることや、電子書籍への以降などの影響もあると思われる。全国的な減少傾向とあわせて要因の一つに、資料購入費が増えないなかで市民の多様なニーズに応えきれていないことがあげられる。

26年3月にコンピュータシステムの更新を行い、利用者の利便性が向上した。今後は、フロアワークのさらなる充実に取り組み、展示の工夫や本の入れ替えなどにより、利用者の視点に立った魅力的で新鮮な書架を保ち、市民の暮らしや仕事に役立つ図書館をめざす。

リクエストについては、個人予約計656,072件（6.2%減）となり、初めて減少に転じた。スマートフォンの普及に伴い、専用サイトを開設したことで今後の利用拡大が見込まれる。

利用者からの要望も多様化しているなか、購入をはじめ他市からの借用などにより、リクエストの提供率は95%台を維持している。

＜ヤングアダルト（YA）サービス＞

YA世代（ここでは概ね12歳から18歳くらいの若者）へのサービスは各館に広がっており、平成25年度には6館でコーナーが設置されている。豊中市内の高等学校から取寄せた学校案内やYA向け情報誌の収集、コーナー開設のチラシの配布（野畑）や「YA! BOOKS通信」の発行（千里）など情報の収集と発信に努めている。「YA! BOOKS通信」は12号を刊行しWebサイトでも公開している。

高等学校との連携では、学校訪問や豊中高等学校への絵本出前講座など、継続した取り組みを進めている。出前講座の成果として高校生が作成した絵本POPは市内3館と熊野田小学校で展

示を行った。25年度は、豊中高等学校家庭科室に設置した書架にYAコーナーの資料を展開し、図書館に来館しにくい高校生が本に出会う機会を提供した。

中学生へのサービスは、学校図書館と連携し学校図書館の紹介や作品展示を積極的に行った。職業体験学習で作成したおすすめ本のPOPも多くの館で展示に活用している。作品展示をきっかけに、ふだん図書館を利用しない中学生が友人と来館するなど利用促進に繋がった。中学校区ごとの地域教育協議会（すこやかネット）の活動に参加する図書館もあり、中学生に図書館をPRする機会となっている。

紙芝居ボランティアの指導（高川）や「高校生・大学生のためのボランティア講座」（岡町）も継続した取組みで、図書館を通じてボランティア活動に参加する学生も多く、「ふゆのおたのしみ会」（千里）では学生ボランティアによるおはなし会も行われている。

中高生世代からは図書館に居場所を求める声も多い中、蛍池図書館では、春休み・夏休み期間に公民館の保育室を「^{しゃべり}shabe-ri場」と称して開放し、好評を得ている。



25年度は、YAコーナーを市民にPRすることを目的に「作って、送って、飾って、絵封筒展」を開催した。切手とイラストを組み合わせ制作した絵封筒を市民から募集し、巡回展示を行った。

各館での展示	
岡 町	豊中高等学校絵本 POP、第三中学校読書郵便、第五中学校図書委員 POP、絵封筒展
庄 内	第十中学校図書委員おすすめ本、絵封筒展
千 里	豊中高等学校絵本 POP、第九中学校書道同好会作品展、絵封筒展
野 畑	学校図書館ポスター展、第二・第十四中学校おすすめ本の紹介、絵封筒展
東 豊 中	学校図書館大集合、絵封筒展
服 部	豊中高等学校絵本 POP、第四・第十六中学校調べ学習、絵封筒展
高 川	学校図書館大集合、絵封筒展
蛍 池	学校図書館の活動紹介と生徒の作品展、第十三・第十八中学校・刀根山高等学校おすすめ本の紹介、絵封筒展、大阪大学学生による POP 展示

<こども室・児童書コーナー>

平成25年度の児童書の貸出冊数は1,009,350冊（対前年比2.5%減）、継続貸出冊数は54,363冊であった。貸出冊数のうち個人貸出冊数は904,654冊（3.7%減）と、24年度に引き続き減少が見られる。14歳以下の貸出人数は148,095人（5.8%減）、登録率は27,776人（1.9%減）となった。全国的に貸出冊数は減少傾向にあるが、利用実態のさらなる分析が必要である。

25年度も子ども読書活動推進計画に基づいて、乳幼児期から子どもの発達段階に応じたサービスを行った。

ブックスタート事業「えほんはじめまして」をきっかけに、図書館に来館する親子は増え、乳幼児向けのおはなし会は、参加者の交流の場ともなっており各館盛況である。また、男性職員によるおはなし会の開催や、子育て座談会にパネリストとして男性を迎えるなど、誰もが参加しやすい行事を心がけている。授乳スペースにクッションを設置し、靴をぬいでゆったり絵本を楽しむスペースを設けるなど、快適に過ごしてもらおう工夫が各館で進んでいる。「えほんはじめまして」のフォロー事業である「すくすくあかちゃんタイム」や「えほんにたっち」も好評である。ボランティアと協力して行うおはなし会では、ストーリーテリングなどを実施する館も増えており、読み聞かせだけではなくおはなしを楽しむ機会をより多く提供した。

図書館職員が子育てサロンや子育て支援センターなどに出向き、親子に絵本の楽しさを伝える出前講座は、ここ数年で定着し、開催の要望も多い。校区ごとの子育て・子育て支援ネットワーク子ども部会にも積極的に参加し、地域課題など情報共有を図った。また、図書館での居場所づくりとして、庄内では学習の場所を提供する「しゅくだいおうえんだん」を設けている。

保健予防課との連携事業「食育コラボ～みんなでは・は・は」の実施館は、25年度は4館から7館に増えた。

学校へのサービスでは、レファレンスの対応や団体貸出の他、小学校からの図書館見学「ようこそ図書館へ」、中学生の職場体験学習（CUL）の受入れも継続している。児童・生徒の作品展示の開催や学校図書館だよりへの記事の提供など、連携による取組みが広がった。作品展示の中には、公共図書館と学校図書館の資料を総合的に活用して行った調べ学習の成果物もある。これらは地域の人々の来館につながり、学校との連携についてPRする機会にもなった。



調べ学習の掲示（庄内図書館）

また、保育所や幼稚園からの依頼でテーマ本を集めての団体貸出も来館・配本それぞれに継続的に行っている（団体貸出P19、ブックプラネットP38参照）

今後も学校図書館や様々な機関・地域との連携をさらに深め、子どもたちの読書、情報収集と活用への支援を直接的・間接的に行っていく。

◆ブックスタート事業「えほんはじめまして」

赤ちゃんと一緒に絵本を開く楽しさを伝えるために、図書館と保健予防課、豊中子ども文庫連絡会、市民ボランティアとの連携・協働によって、平成25年度も市内3か所の4か月児健康診査会場で実施した。当日健診に参加できなかった赤ちゃんには保健師の家庭訪問や絵本の引換券配布などの方法を通じて、絵本を手渡している。事業の定着とともにこのような対応件数も増え、地域の子育て支援体制へつないでいる。（保健師の家庭訪問での配布は、24年45件、25年89件）この健診は、母語が外国語の人や障害のある人に図書館サービスをご案内できる貴重な機会ともなっている。

ブックスタートを支えるボランティアスタッフ間の研修やスタッフミーティングを4回開催し、事業への認識を深めた。また、その活動が評価され、市民協働部発行の『NPOと行政の協働 豊中市の実践』に記事掲載された。(地域・市民との協働 P9 参照)

とよなか男女共同参画センターと共催で開催した「子育て座談会」や各図書館でも開催した「巡回写真展」では、赤ちゃんと絵本を楽しむようすを市民に知ってもらい、事業の周知とともに、地域ぐるみでの子どもの健やかな育ちへの支援を伝えることができた。

健診の待ち時間に絵本の読み聞かせを体験し、帰ってから持ち帰った絵本をすぐに楽しめるので、受診者に好評である。この事業で絵本の楽しさに触れ、配付したバッグを持って来館される親子も多く、赤ちゃんのいる風景は豊中の図書館で日常的なものになっている。



子育て座談会

◆団体貸出サービス

学校、放課後こどもクラブ、幼稚園、保育所(園)、子ども文庫およびおはなしボランティアグループ、高齢者施設、読書会等自主的な活動グループに資料の団体貸出を行っている。

平成25年度より団体に向けたリサイクル本提供の常設コーナーを設置。45件、1801冊の利用があった。

<学校図書館>

25年度の小・中学校図書館への貸出冊数は43,336冊(他に継続貸出10,998冊)となった。21年度からは、要望に応じ1学期ごとに上限50冊の長期貸出を行っている。学校への連絡便が週2便に増えたことにより、学校間も含めた物流体制の整備がすすめられた。

毎年2回、学校図書館と公共図書館司書との地域館交流会を実施している。岡町図書館では、1回目の交流会で「司書大賞」としてYA世代におすすめの本を選ぶことを決定、2回目の交流会で対象を選定し、対象を含むノミネート作品すべてを各学校にて巡回展示した。



地域館交流会

・学校図書館支援ライブラリー

23年4月から庄内幸町図書館のこども室を機能変更し、学校図書館の「読書」「学習・情報」「教員支援」の三つのセンター機能をサポートすることを目的として運営しており、調べ学習サポートパック・図鑑セット・百科事典、教員向け資料の収集と提供を中心にサービスを行って

る。この他にも、庄内幸町近隣の小中学校 5 校への聞き取りを行い、希望に沿ったテーマの資料の貸出しも実施している。

教員向け資料は、25 年度は約 200 冊を新規に購入し、全部で 815 冊となった。この資料は、教育センターの図書担当者や指導主事の意見を参考に選書し、学校図書館を通じて市内の小中学校の教員に提供している。25 年度はのべ 757 冊の貸出があった。

学校間を走る物流便の再編に備え、各館で分散して所蔵していた資料（調べ学習サポートパックに加え図鑑セット、百科事典）を集中管理する体制を整えた。これらの資料は、索引の使い方や課外学習の事前授業等、調べるための基礎的な学習によく利用されており、図鑑の貸出は 24 年度の 2 倍に増加した。学校図書館との交流会などでこれらの資料について意見を集約し、毎年更新を行っている。

学校図書館と公共図書館の連携における中心的機能を担いながら、今後も「学校図書館支援ライブラリー」のあり方を検討していく。



学校図書館支援ライブラリー
テーマ別資料



調べ学習サポートパック

<放課後子どもクラブ・幼稚園・保育所（園）等>

放課後子どもクラブの 25 年度の貸出冊数は 12,390 冊。小学校全校に配本している。また、蚩池人権まちづくりセンター、豊中人権まちづくりセンターの各児童館に対しても、行事や取り組みに必要なテーマの資料を貸出している。保育所（園）の貸出冊数は 29,249 冊、幼稚園は 2,643 冊。教諭・保育士からの相談に応じ、行事やテーマに即した資料の提供、お散歩来館にも貸出を行っている。25 年度も私立幼稚園教諭・民間保育士向けの絵本講座を開催した。今後もより多くの参加につながるよう取組みを工夫していきたい。

<子ども文庫>

25 年 4 月現在、13 の子ども文庫があり、「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は 10 文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、長年にわたって子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また子どもを取り巻く大人の交流の場として地域に根付いている。図書館からは文庫活動を支援するために、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供している。25 年度は図書館から 6,777 冊の貸出があった。おはなしやてづくりあそびを楽しむ子どもと本のまつりや箕面公園昆虫館館長の久留飛克明さん、イラストレーターのたかいよしか

ずさんの講演会とワークショップに取組むなど子どもと本のつどいを共催で行った。

＜おはなしボランティア＞

豊中紙芝居の会、千里ストーリーテリングの会、野畑おはなしの会、おはなしたまてばこ、おはなしたんけんたいなど、市内で約 40 のグループが各小学校への読み聞かせを中心に活動している。

なかでもボランティア養成講座から結成したグループ「おはなしボランティア ポケット」は、80 名を超えるメンバーで構成され、活動の幅を広げている。図書館では、おはなし会に用いる絵本の貸出や資料相談を行い、活動に関する様々な相談にも応えている。

25 年度の読み聞かせのボランティアグループへの貸出冊数は 17,566 冊と増加している。今後も資料・情報を提供し、フォローアップ講座の開催や新たなボランティアを対象とした「子どもと本をつなぐボランティア講座」の開催など連携を深めながら活動の支援を継続していきたい。

＜高齢者・福祉施設＞

25 年度、高齢者施設・福祉施設への貸出は、71 団体に 8,312 冊（他に継続 421 冊）となった。高齢者施設が増加し、図書館利用への需要も増えているが、各施設の事情を反映し、本の管理の負担から、貸出よりリサイクル本譲渡への要望も高まっている。

児童発達支援センターなどの福祉施設へは、動く図書館および岡町・庄内図書館による配本・巡回サービスのほか、野畑や高川では、休館日を活用し見学会を兼ねた貸出を毎年行っている。市民生活のなかでも身近な施設であることから、福祉施設からの問い合わせや団体での来館利用が多い。

今後も各施設と連携しながら、需要に合わせたサービスのあり方を探っていく。

◆動く図書館による巡回サービス

＜一般ステーション＞

図書館から遠く離れた地域の市民に、動く図書館「とよ 1 ぶつくる」が約 3,200 点の資料を積んで市内を巡回し、貸出を行っている。現在は 18 ヶ所を巡回（約 4 週間に 1 度）している。

平成 25 年度、動く図書館の年間貸出人数は 7,435 人（前年度比 1.7%減）とほぼ横ばいであるが、施設ステーションでの貸出も含めた年間貸出冊数は 68,567 冊（前年度比 5.8%減）と減少している。そのなかでもリクエスト数は増えており、利用傾向の変化がうかがえる。社宅やマンションでは転勤などによる住民の移動が多く、新たな利用者の拡大をめざして、より一層広報に力を入れていきたい。

＜施設ステーション＞

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、動く図書館が巡回している。

25 年度は、支援学校 2 ヶ所、児童発達支援センター 2 ヶ所、市立保育所 3 ヶ所、民間保育所 3 ヶ所（うち工事のため 1 ヶ所休止）へ約 4 週間に 1 度巡回した。

保育所 5 ヶ所では、卒園するクラスを対象に図書館職員によるおはなし会を実施、支援学校・

児童発達支援センターでは、おはなしボランティアグループによる「おはなし会がやってきた！」

を3ヶ所で全6回実施した。いずれも永年継続して取組んでいる事業である。

◆図書室

いぶき図書室には約7,000冊の資料があり、週2回、水曜日と土曜日の午後1時から5時まで開室している。また第1・第2水曜日にボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。

豊島西小学校内のバス図書室は、廃車となった動く図書館車を活用した週1回、日曜日の午後2時から4時まで開室している。25年、小学校の耐震工事に伴い校内にある倉庫部分に移転、現在に至っている。25年度の貸出冊数は、いぶき図書室・バス図書室あわせて25,408冊であった。今後とも定期的な蔵書の入れ替えと利用を促すためのPRを行っていく。

◆レファレンスサービス

調査・研究・読書相談・日常におけるさまざまな疑問について、資料・情報の提供や関連機関の紹介により解決を図るサポートを行うのがレファレンスサービスである。豊中市立図書館では昭和44年から参考室を設け、専任の職員を配置してサービスを行ってきた。

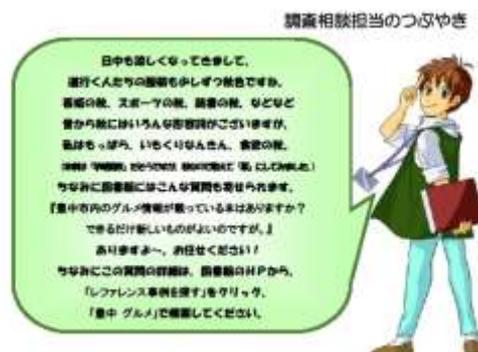
現在では来館や電話による相談に加え、インターネットによるeレファレンスや、FAXによる受付も実施。講座や催しなどの際に、テーマに応じた具体的なレファレンス事例を紹介することで、より専門的な質問が増加している。事例の蓄積についても国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用しながら、継続して進めており、一部Webサイトで公開し24時間どこからでもアクセスし、参照できる。調べ方ガイド「検索ナビ」の作成や更新も継続的に行っている。

また、レファレンス研修や著作権講習などにも毎年参加し、人材育成に努めている。

平成25年度はサービスを周知するための新たな取組みとして、実際に受けたレファレンス事例と回答を逐次プリントし、掲示・配布を開始した。今後も、レファレンスサービスの市民への周知、利用増加をめざしてPR強化を図りたい。



※レファレンス協同データベースについては **P6** を参照



◆行政へのサービスと連携

庁内各部局への新たなサービスとして平成 22 年に開始した“庁内仕事応援サイト”は、行財政再建対策室、職員研修所、情報政策室と図書館の 4 課のコラボレーションで庁内 LAN に立ち上げたものである。今年度より行財政再建対策室がその役目を終え、室が解体されたため、サイトを担当する課は 3 課となった。

サイトの PR を各職階別研修で行なったことで、庁内各部局からのレファレンスサービスの需要は増加している。反面、サイトへのアクセスそのものは伸び悩んでおり、コンテンツやシステムの一部を使い勝手のよいものに変えるなど検討してみる必要がある。今後も各課が当該サイトやレファレンスサービスなどを活用し、それぞれの業務を通じて市民へのサービスをより豊かなものにすることが可能となるよう運営をしていく。また、図書館から庁内に向けた広報活動も、引き続き積極的に行なっていく。

◆資料の収集と保存

職員で構成する選書委員会が、毎週全館の資料の選書を行っている。「豊中市立図書館資料収集方針」（図書館 Web サイトで公開）に基づき、市民の主体的な生涯学習活動を支援していくために市民の要望及び社会の動向にも配慮しながら、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常生活に役立つ資料を収集している。平成 25 年度も引き続き「暮らしの課題解決」支援サービスに関わる資料の整備に取り組んだ。

出版事情により、大手取次店であっても在庫がなく品切れで返されるケースが多く見られ、発注作業にも影響を及ぼした。また、昨今、切り取り・書き込みを前提にした資料や特殊な付録付き資料、電話やダウンロードなどのサポートサービス付の資料など出版の形態も多種多様になってきており、選書も難しい判断が迫られている。

資料費増額が困難な状況が続いているが、図書館が果たすべき使命や役割を念頭に置きながら、リクエストやレファレンス内容の分析を行うと同時に、府立図書館や他市の図書館との相互貸借制度も活用し、利用者への多様な資料・情報提供をめざす。

◆人権に関する取組み

市民向けの取組みとしては、各種資料展示や、人権講演会、パネル展を実施している。また、図書館の職員が人権について理解を深め、業務を通じて啓発につなげるため、年 3 回の研修を行っている。

〈市民向け人権講演会・資料展示・パネル展〉

・講演会「前向きに生きる力を育てる～子どもへの声のかけ方やタイミング～」

講師：臨床心理士 津田仁美さん

・講演会「サベツって…何ですか？角岡さんに質問！（今さらこんなことも聞いてみる？）」

講師：フリーライター 角岡伸彦さん

- ・講演会「いじめ問題を通して地域のあり方を考える」 (公民館との共催)
- ・講演会「福島を考える～人権の視点から～」 (公民館との共催)
- ・資料展示 平和月間に戦争と平和に関する資料
人権月間に人権関連資料
黒人、アメリカ先住民、ネルソン・マンデラ等の資料 (蛍池)
- ・パネル展示 ユニセフ写真展(千里・蛍池)
(全体職員研修)
- ・「豊中市子ども健やか育み条例について」 講師：こども政策室職員
- ・「自分をくぐる人権・部落問題」 講師：人権教育室職員
- ・「豊中市図書館人権問題関係略史について」 講師：図書館人権推進委員その他

◆障害者サービス

身体上の都合で来館できない市民に、郵送・宅配により資料を貸出している。

視覚に障害のある人には、録音図書(音訳図書やデージー図書)・点訳図書を収集・貸出し、対面朗読を実施。岡町・庄内・千里・野畑・蛍池図書館には、拡大読書器を設置するとともに、大活字本は全館で提供している。

耳の不自由な人には、手話・筆談等による対応を行い、千里・蛍池図書館には、補聴器用の磁気ループを設置している。又、豊中市内全図書館のカウンターに「耳マーク」を設置した。

録音図書、点訳図書の作成や対面朗読サービスは、ボランティアグループの協力を得て行っており、その活動を支援する音訳ボランティアフォローアップ研修講座なども実施している。

平成25年度は、サピエ図書館に入会し、豊中市で作成されたデージー図書の利用が全国に広がり、貸出し件数が飛躍的に伸びた。高齢人口の増加、資料のメディアが進化するなか、障害者サービスも多様化している。情報格差を解消し、多様な情報提供を行うためには、職員の研修への参加、他部局との連携、近隣の自治体やボランティアグループとの協力が必要となってくる。お互いに気軽に相談できる関係を築けるよう、日頃から情報や意見の交換を行い、交流を深めていきたい。

※音訳図書＝目の不自由な人などのためにカセットテープに録音したもの

※デージー図書＝CD-ROMに音声情報を記録したもの

※磁気ループ＝マイクを通した明瞭な音声を聞くためのシステム

※耳マーク＝公共の窓口等で、聞こえないために後回しされないよう、不利・不便の解消

※サピエ図書館＝点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベース(約53万件)

◆多文化共生

庄内図書館の多文化共生コーナーの資料として、アラビア語、インドネシア語、日本語併記の英語資料などの充実に努めた。千里・野畑・蛍池図書館にも多文化共生コーナー用資料を置き、国際交流センターへの団体貸出も引続き実施し、利用の促進とPRに努めた。また、庄内を会場に、国際交流の会とよなか「T I F A」の協力のもとネパール語とタイ語による読み聞かせなどの「多言語で遊ぼう！」を開催した。

岡町図書館こども室の「世界のこどもの本の部屋」では、日本語以外の言語を母語とする児童への資料提供のため、世界の各言語で書かれた子どもの本を収集し、貸出している。現在、蔵書数は約8,000冊であり、毎年蔵書の更新をはかっている。市役所で行われた「ふれあい・発見・アジアの国々（豊中市人権啓発市民ネットワーク会議主催フェスタ）」の催し「アジアの本の読み聞かせ」に、人権文化部からの依頼を受け、豊中子ども文庫連絡会を通じてアジアの資料を提供した。



「多言語で遊ぼう！」

とよなか国際交流センターのボランティアによる「おやこでほんご」は、岡町・庄内・千里図書館でおこなわれ、外国人親子の日本語学習や情報交換の場となっている。

千里コラボで毎月行われている「多文化カフェ」は、外国人や外国に滞在経験のある市民をゲストに招いて、現地の様子や文化を知り学び合う市民実行委員会主催事業であり、千里図書館から資料の提供を行っている。また、コラボまつりにおいて、国際交流の会とよなか「T I F A」との共催により「世界の打楽器を楽しもう」を開催。ペルーの打楽器の演奏とともに、参加者も打楽器を持ち寄り、合奏を楽しんだ。

今後も関係部局と連携を深めながら、豊中で暮らす外国人やその周囲の人々へPRを行い、資料・情報の提供に努めていきたい。

◆研修

平成25年度は、「とよなかブックプラネット事業」の進捗に合わせて、引き続き学校図書館機能に関する研修を受講するとともに、公共図書館の司書として、全国の様々な先進事例および業務に関係の深い社会動向を学ぶことに努めた。行政職員としての知識・技術の習得という側面では、政策課題に沿って開催される庁内研修を中心に受講した。また、図書館システムのリリースを年度末に控えていたことから、担当者を中心として視察や研究にも力を注いだ。

「暮らしの課題解決」支援サービスに関連したテーマについては、できるだけ多様な研修に参加し、研修資料や記録を共有し業務改善に活かすよう努めている。

6月末には、鳥取県立図書館から小林隆志さんを講師に招き、「図書館の力～住民に必要とされる図書館をめざして」というテーマで、市民との共催による講演会とワークショップを開催した。

「児童文化と子どもの理解」「困難を抱える若者への支援」「レファレンス」「障害者サービス」などのテーマについては、継続的に研修に取り組んでいる。今後の図書館運営の中核を担う人材の育成に注力する観点から、「図書館司書専門講座」や「中堅職員ステップアップ講座」など、多様な研修テーマについて集中的に学ぶ講座の受講も続けている。

今後は、職員の多様な雇用形態を踏まえて、職員一人ひとりのキャリア形成の視点を大事にした研修の企画実施をめざしていきたい。

職員が受講した主な研修

図書館専門研修	
大阪公共図書館協会児童サービス基本研修	大子連児童文化講座
日本図書館協会 中堅職員ステップアップ講座Ⅰ	声がつくるものがたり、声をつくるものがたり
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 図書館司書専門講座	お話が生まれるまで 絵本の果てしないひろがり・・・
近畿視情協障害者サービス基礎研修会	やっぱり図書館が大事 Part22
著作権実務講習	大阪の歴史・文化と中之島図書館～タンタンの想い～
大阪公共図書館協会講演会 花づくりと図書館オブセ	学校図書館が動き出すと子どもが変わる、学校が変わる
府立中央図書館職員によるレファレンス研修	～本を読む子は必ず伸びる～
大阪府公共図書館協会児童サービス中級講座	絵本の中の時間と空間
大阪公共図書館協会児童サービス実務研修	『パンプキン!』という本ができるまで
「ボランティア対象研修会「絵本を選ぶ」を企画する」	ピーターラビットの世界
大阪公共図書館大会「地域の課題を解決する～打って出る図書館」	物語の源流にある神話と自然 その他
「10年後、あなたの町に図書館はありますか？ みんなで地域に学び合う場としての“としょかん”へ」 「高齢者施設訪問サービス「元気はいたつ便」 について」「しょうないREKのキセキ」	大阪府・大阪市経済動向報告会 最近の大阪経済の動向 大阪府内サービス産業における人材確保・育成 ・活用に関する調査／企業における若年未就業者の 雇用について一雇用の創出と安定雇用に向けて
近畿公共図書館協議会講演会 「いま、出版をやるといふこと」	就活 企業研究セミナー
学校図書館を主題にした研修／公立図書館と学校との 合同研修等	サピエ研修会 マルチメディアデジター図書館講演会 教科書他
日本図書館協会学校図書館部会 近畿ブロック 「今こそ考えよう学校図書館～学校図書館法成立から 60年」「学校図書館法の制定60年と今に続く課題 ー学校図書館専門職員の問題を主に」	JLA・NDL 関西館主催 障害者サービス担当職員研修 および実習 大阪府内市町村図書館等障害者サービス研修会 大阪公共図書館協会研修会
大阪府公共図書館学校図書館合同研修 「考える力」をはぐくむ図書館	「図書館における高齢者サービス」 子どもの読書推進活動支援員養成講座
2012年に出版された子どもの本（紹介と解説）	おはなしボランティアフォローアップ研修講座
公共図書館司書と学校司書の交流研修	子どもに本（おはなし）を届けるということ
大阪府教育センター読書活動フォーラム 学校図書館の活性化のための取組みについて	読み聞かせ研修 読み聞かせの活動をはじめするための基礎知識
大阪府図書館司書セミナー	読み聞かせ研修 絵本の選び方・読み方
本の修理	図書館地区別研修 ML A連携
ネットワーク時代のレファレンスサービス 「第2次子ども読書活動推進計画／子どもの理解能力 を育む絵本の役割」	図書館地区別研修 文化発信メディアと場をつくる舞台 としての図書館の役割 図書館地区別研修 蔵書のない図書館が・・・
「戦略をつくる・実行する・未来をつくる 図書館 のデータを活かす」	まちライブラリー「ブックディレクターの考える 棚づくり」

図書館専門研修	
図書館地区別研修 地域とつながる図書館パネルディスカッション	図書館職員スキルアップ研修 「図書館サービスの可能性を広げよう！」 ①大阪市立図書館における電子書籍提供 ②大阪市立住吉図書館「思い出のこし」事業 ③「豊中における学校図書館支援サービス」 ④「まちライブラリー」 ⑤「としょかん探偵団」大阪狭山 ⑥「NDL オンライン資料収集制度 e デポ」 ⑦「これは便利！レファレンス協同データベース」 ⑧「図書館活動を市民活動の拠点に」エルイブ ラー ⑨「ビジネス支援課の取組について」中之島
図書館地区別研修 電子書籍流通基盤と図書館	
参考業務 基本研修 ビジネス支援資料	
豊子連講座 ひこ田中さん講演会	
市民との合同研修 図書館のカ 住民に必要とされる図書館をめざして	

一般研修	
接遇研修	情報セキュリティ研修
法制執務講座	とよなか都市創造研究所研究報告会
市有施設有効活用システム操作研修	シティプロモーションサミット基調講演 「共創の公共空間とは」
契約事務研修～契約実務研修	情報セキュリティ研修
財務会計基本研修	とよなか都市創造研究所研究報告会
文書管理研修	公共空間をリノベーション ～空間をもっと楽しくハッピーに使おう～
段取り力向上研修	阪大公共政策研究会 豊中市政策提案発表会
内部統制研修 NPM から NPG へ	政策評価ワークショップⅡ 親学習ファシリテーター養成講座
危機管理研修	3 年目職員研修
豊中市DV防止ネットワーク会議合同研修 「DV被害から自立までの支援」	身近な縁から育てる豊中の志民力 障害当事者から学ぶ人権と接遇
メンタルヘルス研修	雇用・労働問題講演会 若者と日本の雇用システム～何が問われているのか
ひきこもりの若者を支援につなぐための講習会 とよなか若者サポートステーションの取り組み	合同人権研修会「豊中の人権を学ぶ」 DVD視聴「人とよなか寺本知」
ひきこもりの若者を支援につなぐための講習会 若者のための居場所の運営	災害対応マニュアル研修
ひきこもりの若者を支援につなぐための講習会 蓮風の取り 組みと落ちこぼれない仲間づくり	
公共政策公開講座 指定管理から直営へ・・・	

◆集会室

図書館主催行事や会議等で使用するほか、市民グループ活動のために集会室を提供している。図書館関係団体、読書関係団体、社会教育・文化関係団体、福祉および地域振興団体、市の各部署などが利用している。平成 25 年度は、11 月から 3 月まで豊中市の雇用創出事業の実施会場として集会室を活用した。また、一般の集会室利用は全体で 2,579 回、37,020 人の利用となり、地域に公共施設の少ない野畑や、図書館関係団体の活動の拠点となっている岡町での利用が多い。

今後は、学びによる市民と地域の自立を支えることを念頭に置き、活動の成果が地域にひらかれ、広く市民に還元されるような提供のあり方を検討していく。